

各関係機関・団体長 様

愛媛県病害虫防除所長

病害虫防除技術情報（第 3 号）の送付について

このことについて、次のとおりお知らせしますので、御参照の上、防除指導方よろしく
お願いします。

記

- 1 情報の内容 **かんきつかいよう病の発生状況と防除上の注意について**
- 2 **カンキツかいよう病の発生状況と今後の発生予想**
 - ア) 6 月中旬の定点調査では、中・南予地域を中心に発病葉率・発病度ともに平年に比べて高くなっている（表 1）。
 - イ) 6 月下旬～7 月上旬に実施した品種別の発生調査では、全県的に発生程度は高く、比較的発生が少ないとされる温州みかんでも発生程度の高いほ場が認められている。また、中・南予地域ではかいよう病に罹病性とされる‘愛媛果試第 28 号’、‘甘平’等での発生が目立っている（表 2）。
 - ウ) 台風 7 号の強風やその後の大雨等により樹体が損傷し、発病助長が想定される。
 - エ) 1 か月予報（平成 30 年 7 月 5 日発表）では、気温は高く、降水量は多いとされており、発病に助長的である。
- 3 **防除上の注意**
 - ア) 発病葉や発病果は早急に除去し、病原菌密度の抑制に努める。なお、現在発病が認められない園地でも、園地観察に努め夏枝は可能な限り除去する。
 - イ) 強風による付傷やミカンハモグリガの食害痕は発病を助長するので、防風垣や防風ネットを整備するとともに、ミカンハモグリガの防除を徹底する（県防除指針参照）。
 - ウ) 既に発生が認められるほ場では、早めの薬剤散布に努める（表 3）。なお、葉害が発生する恐れがあるので、銅水和剤は高温時の使用を避け、散布時は霧を細かくし薬液が滴り落ちる程は散布しない。
 - エ) 台風の襲来が予想される場合には、事前にマイコシールドを散布する（但し、極早生品種等では収穫前日数に注意する）。

表1 定点ほ場におけるかんきつかいよう病発生状況(H30年6月中旬)

地域	発病葉率(%)		発病度 ¹⁾	
	H30	平年 ²⁾	H30	平年
東予	0.00	0.02	0.00	0.003
中予	0.94	0.03	0.35	0.01
南予	1.31	1.01	0.45	0.32
県全体	0.86	0.49	0.31	0.15

1) 発病度 = $\Sigma (5 * 多 + 1 * 少) * 100 / (調査葉数 * 5)$

2) 平年: H21~29

表2 かんきつかいよう病の品種別発生調査結果(平成30年6月下旬~7月上旬)

地域	愛媛果試第28号		甘平		いよかん		温州みかん		その他	
	発生圃場率	発病度	発生圃場率	発病度	発生圃場率	発病度	発生圃場率	発病度	発生圃場率	発病度
東予	57.1	28.6	50.0	23.3	63.6	12.7	33.3	6.7	28.5	6.7
中予	75.0	31.7	86.7	33.3	75.0	20.0	33.3	6.7	40.0	20.0
南予	91.3	44.3	84.4	30.6	60.9	18.3	77.8	24.4	54.8	27.7
県全体	81.0	38.1	81.1	30.6	63.8	17.7	55.6	15.6	48.8	23.3

1) その他: 中晩柑品種(せとか、はれひめ、甘夏、ポンカンなど)

2) 調査ほ場数は、東予34、中予50、南予141の合計225ほ場

3) 発病度 = $\Sigma (5 * 多 + 1 * 少) * 100 / (調査葉数 * 5)$

表3 かんきつかいよう病防除薬剤

薬剤名 ²⁾	濃度	使用時期/使用回数		FRACコード ³⁾
		かんきつ(温州みかん除く)	温州みかん	
コサイド3000	2,000倍	生育期/-	生育期/-	M1
ムッシュボルドーDF	1,000倍	-/-	-/-	M1
ICボルドー66D	200倍	-/-	-/-	M1
マイコシールド	1,000倍	収穫30日前まで/2回以内	収穫60日前まで/2回以内	41

1) コサイド3000、ムッシュボルドーDFに対し、薬害軽減のため炭酸カルシウム剤を加用すること。

2) 薬剤は、H30農作物等病害虫防除指針から7~9月に使用可能な薬剤を抜粋。

3) FRACコードとは、FRAC(殺菌剤耐性菌対策委員会)により、交差耐性の特性に従って殺菌剤グループを分類したコードのことで、体系防除・ローテーション散布の際、コードが異なる薬剤を組み合わせ使用することが推奨されている。



写真 かんきつかいよう病発病葉
(左上：愛媛果試第 28 号、右上：甘平、左下：いよかん、右下：温州みかん)